

豊島区子どもの権利委員会において委員の皆様からいただいた御意見について

資料1	令和6年8月29日
	第32期青少年問題協議会 第8回専門委員会

(1) 計画全般

No.	御意見の内容
1	昨年度実施した、計画を策定するため「子ども・若者の実態・意識に関する調査」について、調査をして終わりにするのではなく、それを子どもたち等とフィードバックすることが大切。そこで子どもたちから出た意見や感想等から、計画や今後の取組に活かせることが見えてくると思う。
2	「としま子ども会議」で子どもたちから出た意見も計画に反映できると良い。例えば、昨年度のとしま子ども会議で「子どもの権利の出張講座を区内の公小・中学校全校で実施してほしい」という意見があった。「子どもの権利条例」についての認知度が低い状況にもあるので、例えば、「学校で子どもの権利を教えているか」というような指標を入れる等、子ども目線が出た意見を計画のどこかに反映していくことができないか。
3	子どもの権利を尊重する流れの中で、子どもや先生、教師や保護者等それぞれが繋がり、連携が大切になってくると思っている。この計画の中でも「繋がり」や「連携」というような言葉が入ってくると良いと思う。
4	必ずしも定量的なものだけでなく、定性的なもの（子どもの意見を聞いたり、あるいはその利用者の意見を聞いたり、その内容も踏まえてどうだったか等）は、子どもの権利の視点からの評価・検証していく中で大切であり目指す方向となる。
5	孤立してどこともつながらないことが人権侵害の極みで、逆につながっていることで救われているということが実際にある。孤立せずに地域や社会とつながることが子どもの権利なんだという視点を計画の中にぜひ入れていただきたい。（第3期権利委員会での意見）
6	「子どもの権利」という言葉を適切に理解していない方もまだ多くいると思うので、計画の中でも「子どもの権利」について紹介できたら良い。
7	「運動会」や「修学旅行」の企画、また地域での花火大会の運営等、学校現場では「子ども意見表明・参画」を実践している例がいくつもある。そのような学校現場での取り組みもこの計画に位置付けていくことはできないか。保護者等にも「子どもの権利」の実例としてわかりやすいモデルになると思う。

(2) 計画の進捗を測る指標について

No.	御意見の内容
1	例えば「“ホッとできる場所はどこですか”の設問のうち“ない”と回答した子どもの割合」という指標の目指すべき方向性は「維持（→）」となっている。確かに数値自体は低いものであるが、できればゼロを目指してほしいため、目指すべき方向性は「↓」にしてほしい。
2	指標の達成度を裏付けるような複合的な指標も計画の中に補充的に取り入れてみると良いのでは。
3	指標の対象が曖昧なところがある。例えば「地域活動・イベント・ボランティア等に参加したことがある」と回答した若者の割合」という指標も活用するデータは“①小学生 ②中高生”のデータを元にするので、“若者”よりも“子ども”の方が適切ではないか
4	意見表明をした後、その意見がどう扱われたのか？という点が大事だと思うので、取組の方向性2には「家であなたの意見や思いは大切にされた」と回答した子どもの割合」を入れてほしい。
5	「(4)子どもの権利侵害の防止及び相談・救済」の指標については、起きた後のことの指標だけになっているので、例えば「学校が楽しいと感じている子どもの割合」等、事前の情報がわかる指標があっても良いのでは。

(3) 新たな計画の基本理念・施策体系

No.	御意見の内容
1	目標Ⅰの“目標”について、「子どもの権利を尊重し、自分らしい育ちを支援する」ということは、既に承知しているところなので、例えば「自分らしさを尊重して、のびのびと成長できるようなまちづくり」というような文言でも良いかなと思った。
2	主語を必ず子どもにしなければならないというわけではないが、現行計画の基本理念や目標は「子どもの権利を尊重するのは大人だから」ということで大人目線になっていると感じた。
3	こども基本法で、こどもの意見反映が義務化されたので、取組の方向性(2)について意見表明だけでなく「反映」という言葉も入れたい。
4	取組の方向性(2)について、「参加」という言葉については、具体的には「参加が実際的意思決定に何らかの影響を与えるもの」という意味が込められていることから、こども大綱の言葉に合わせ「社会参画」という言葉に修正を入れたい。(「参加」という言葉だと、“イベント等への参加”というようなこととも同様の意味と捉えられてしまい、誤った認識をもたせてしまう可能性もあるため。)
5	取組の方向性(2)について、「参加の促進」だと子どもたち「参加しないといけないのか。」と義務感を感じてしまう恐れがあるため、「参加の支援」というような位置づけの方が良い。そのため「促進」⇒「支援」という言葉に修正したい。(第3期子どもの権利委員会での意見)
6	取組の方向性(3)「活動の充実」を「体験活動の充実」に修正したい。(こども大綱の書きぶりに合わせる。)